

KAS

風の谷

びゅう

VIEW

社会福祉法人 風の谷
 相模原市中央区田名7236-3
 発行責任者 政野 光廣
 042-760-1033
<http://www.kanagawa-id.org/yamabiko/>
 e-mail: ykoubou@pastel.ocn.ne.jp

2011年 今年も風の谷を

よろしくお願い致します!

福祉って
 なんだろう?

みんな、どんなこと
 を考えながら仕事
 してるのかな?

利用者さんの幸せって

特集：
 やまびこ工場の
 利用者は幸せで
 しょうか?



【2011年 新春号】

◇巻頭文	P 2	◇自閉症支援センター便り	P 3
◇特集：	P 4、P 5	◇自閉症について	P 6
◇作品展について	P 7	◇後援会	P 8

発行人 神奈川県自閉症児・者親の会連合会 代表者 内田照雄 〒243-0035 厚木市愛甲 910-1 コーポ野村 6-109

毎月15日発行 購読料1部 50円

「年頭雑感」

あけましてましておめでとうございます。皆さまには平成23年の新春を迎え、新たなお気持ちでご活躍のこととお慶び申し上げます。当社会福祉法人風の谷も皆様の温かいご支援・ご協力を賜り、設立15年目の新春をつつがなく迎えることができました。関係者の皆様にあらためてお礼を申し上げます。

昨年は民主党への政権交代もあり、「障害者基本法」の改正法案など福祉行政の改革が期待されましたが、ご存じの様に政治の混迷の中、なかなか先行きが展望できない厳しい状況が続いております。生活者一人ひとりを大切に、夢や未来を語れる政治が切に望まれます。この様な状況の中、おかげさまで昨年は法人としての念願でありました「自閉症センター事業」を新棟増築と共に新たにスタートさせることができました。利用者にとって、より専門性の高い安心して利用できる支援事業が展開されていることは、まさに関係者及び職員の頑張りによるところであり、本年度も一層の満足度向上に努めてまいります。

少し個人的な話になりますが、昨年末に心に残ったテレビ番組がありました。「あの人の遺（のこ）した言葉 …NHK-BS」です。

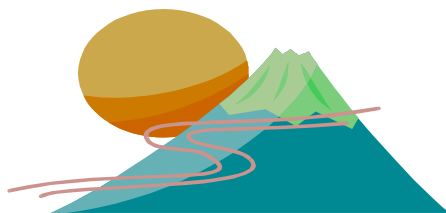
つかこうへい、立松和平、井上ひさしさんなどの生き方、ものの見方、考え方を紹介した番組です。人の生き方、人は何を抛りどころにして生きるのかを考えさせられた先達からのメッセージ番組でした。つかさんについては朝日新聞の天声人語にも記載されていました。つかさんは在日韓国人であり、「いつか公平」の願いを込めた名前で、字の読めない母親を思い、平仮名のペンネームにしたとのこと。番組でも不条理の克服と勇気を持ち続けた生き方が紹介されました。立松和平氏は「自然の回復、人間の回復…今の世は修復、回復が必要！」を語り続け、目先の欲や利便性だけで生きるのではなく、遠くを見据えて人間の生きる抛りどころを生涯に渡り問い続けた姿勢。井上ひさしさんは「人間は信頼するに足る。きっと人間は自分自身で希望を見いだす」と言う温かい姿勢で生き方を問い続け、また自身の体験から、どんな理由をつけても戦争はもうゴメンであるという一貫した姿勢で語り行動したことなどが紹介されました。

この番組を見ながら、さて我々は「風の谷」に関わり、何を訴え、何を残して行かなければならないか、自閉症の人達の社会参加と誰もが安心して暮らせ、住み慣れた地域で最後まで暮らし続ける為に、どのような仕組みが必要なのか！堂々巡りながら、考えさせられた正月休みでした。

さて、本年も職員の一人ひとりが「すべては利用者のために！」を言葉にして、専門性の高い知識、技能を糧に利用者に沿った魅力あるサービスを提供出来るよう研鑽し、新たな挑戦を続けていきたいと思っております。

最後に関係各位の皆さまのご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げますとともに、一層のご支援とご協力を賜りますよう衷心よりお願い申し上げます、新年のご挨拶とさせていただきます。

社会福祉法人 風の谷 理事長 政野光廣



「相模原自閉症支援センター」便り

12月下旬、県立座間養護学校の「地域支援研修会」に講師として招かれる機会に恵まれました。もともと、私にとって“研修”は受けるものであったのですが、今回は珍しく伝える側として参加してきました。

「自閉症スペクトラムの特性の理解と支援の具体的方策」という題目だったのですが、近隣の小中学校や座間養護学校の先生など、沢山の方が参加してくださいました。11月初旬に参加した服巻智子さんの研修会「自閉症の人を育てるための10の心得」では自分自身改めて『なるほど』と感心させられていましたし、同時に理解しているつもりの事が油断すると薄れていき、利用者さんたちをわかっているつもりになっているということも感じていました。それもあり、「彼女の特徴はわかっている」「彼のことは理解している」つもりになっていることがあること。さらには、「彼は慣れているから出来るはず」「彼女なら知っているはず」など、どちらも気を付けていないと支援者がすぐに陥ってしまう落とし穴であること。とにかく「自閉症を正しく理解すること」が重要であることを伝えようと思いました。

まず、自閉症の「認知、情報処理」の特徴を中心に話して、後半に「構造化」を中心にしたやまびこ工房のアイデアと実践について話してきました。最後に「まだわかってあげられていないことが沢山あって、一生かかっても行動の本当の意味は分からないかもしれない。」だけど、「みんなのことが知りたいし、理解したい。伝えたい。」という立ち位置が重要なのだということ。これが、すなわち自閉症の特性を理解して、共感的に寄り添うことを常に考えた支援への第一歩なのだと思うといった内容を話してきました。そして、最後の最後に成人期で支援をしていて必要だと感じている、「アセスメント」「スケジュール」「コミュニケーションツール」に対しての取り組みを、学生時代に是非やってください、とお願いしてきました。そんな最後のお願いに皆さん嫌な顔見せることもなく、概ね共感的なやさしい眼差しで送り出してくださいました。

さて年が明けて、アンケートの結果が送られてきました。「専門用語が多くてわかりにくかった」とのお叱りもいただきましたが、参加してくださった方のほとんどから「よかった」と言っていただけました。少しでも役に立てたのがとても嬉しかったです。今までは、研修は受ける立場がほとんどだったので、その中で理解したつもりになっていることが多かったように思います。今回の経験で、人に話す、伝える難しさを感じながら、自分の言葉で話していくことが大切で、本当の意味で理解するためにはそのことが絶対必要なのだと思いました。自分自身の成長につながる本当にありがたい経験をさせてもらいました。

相模原市の相談支援部会に参加している立場からも、教育と福祉には大きな隔たりがあると感じていました。しかし、障害当事者のことを考えたら、教育と福祉は協力していかなければいけないことも明確です。

実は、今回の講演も支援センターを利用してくださっている、ある利用者さんが繋いでくれた縁と言っても過言ではありません。この縁に感謝しながら、今回のように教育と福祉の垣根を双方で越えていけたらと思います。

こんな機会を頂きました県立座間養護学校、参加するにあたって日々の業務で協力してくれた同僚たち、そして私とたまたま縁のあった自閉症児者の方々に感謝いたします。そして、これからも慢心せず気を引き締めて、自閉症児者のそばに居させてもらえる存在になりたいと思います。

本年もどうぞよろしくお願いたします。

相模原自閉症支援センター 西村 三郎



バザーが決定しました！

平成23年6月5日(日)に毎年恒例のバザーを開催いたします！
少し先ではありますが…皆様のお越しを心よりお待ちしております。

やまびこ工房の利用者は

～自閉症者施設現場で働く人の思いを調査してみました～

幸せでしょうか？

はじめに

私たちは、普段やまびこ工房の利用者さんたちの思いにどれだけ寄り添った支援が行えているでしょうか？利用者さんの福祉・幸せのために何かしたい・・・という思いから始まり、日本の福祉制度の範囲で支援を行う一方で、職員の充実感や満足度は一体どれくらいなのでしょう？そんなギモンから、やまびこ工房の職員に匿名でアンケートを実施しました。アンケート結果より、やまびこ工房がどんなところか紹介できればと思います。

注) やまびこ工房の職員(20代～50代)は、施設長、課長、常勤、嘱託、非常勤職員から成り、役割は管理、事務、支援員、夜間宿直専門の支援員、ガイドヘルパー、ケアホームの世話人からなります。

『達成感はあるとき？』

・一日が無事に終わって皆が帰った時やガイヘルが無事に終了したとき 工房の一日が無事に終わり、バスの中の笑顔を見送る時 など無事に過ごせたことに達成感を感じる人が一番多かったです。裏を返せば、無事でない日もあるのです。やはりそういう日のショックも大きいだけに無事だと安堵します。

・利用者との気持ちが共有出来たと感じた時、苦しいことを乗り越えた時 その人が求めていることが分かって、そこに応えられた時、一緒にいる人が楽しそうにしている時 自閉症者特有の感じ方・考え方は毎日関わっていてもなかなかわかってあげられないことが多いのです。それだけに、わかった！！と思ったときの喜びも大きいです。

・利用者の世界を少しでも広げられたと実感したとき。利用者ができなかったことがいろいろ工夫していく中でできるようになったとき。新しいことに挑戦すると不安定になってしまう利用者は多いのです。けどその向こうに喜びがある。チャレンジするのは利用者にとっても職員にとっても勇気が必要です。

・無事請求事務処理を終えたとき。給料計算が無事終了したとき。

『嫌だなと思うことは』

・職員間のコミュニケーションがうまくいかない時 利用者主体ではなく職員主体、もしくは自分主体で物事が論じられた時

・利用者に叩かれたり、つねられたりすると怖いと思う時があります。利用者が自傷などしているとならなくなります。決してその職員が嫌いで叩くのではないのですが、それ以上に内面において困っていたり、苦しんでいるとこのような行為に達してしまうこともあって、確かに辛いです。

・一般に自閉症という障害があまり理解されない為、ガイヘル中、電車、バス内で周りの人の目が気になったり、心ない言葉をあびせられ、嫌な気持ちになったりすることがあります

・人の親切心や責任感につけこんで、仕事を押し付けられる時

『報酬は足りていますか？』

・十分です

・休日出勤手当はないのでしょうか？

・今もらっている給料でギリギリ足りている(でもこの先、年をとって今と同じくらい給料をもらい生活できるのか不安に思います)

・福祉職ですから、仕方ないと割り切っているところはあります

『やまびこ工房の良い点』

・メンバー間で良い支援を迫った議論が盛んにされているところ 利用者一人一人に合わせて考えようという姿勢を持っているところ

・親御さん、地域の方が信頼し、受け入れてくれているところ

・支援者が温かく見守っていたり、楽しく仕事しているところ

『改善すべき点』

・ケース会議をもっとした方がいい

・情報の共有に努めてほしい 人事の話が非常勤に伝わらない 賃金や契約の話が曖昧

・もっと家族の方とコミュニケーションをとるべき 話すことでもっと利用者のことが理解できるので

『十分な休暇はありますか？』

・もっとほしい 休日出勤、夜勤等あり、家族の時間がとれず、子供が不安定になっている

・夜勤あけの連続勤務があり、仕事の質も下がってしまう

『やまびこ工房の利用者は幸せでしょうか？』

・幸せになってほしいけど、今幸せだとは思わない

・幸せの価値観は人それぞれ。こちらの価値観にあてはめるべきではない

・わかりません 全員ではないと思いますが、ガイヘルでいろいろなところに外出したり、工房内では個々に配慮されていて、いい環境にいるとは思いますが

・こちらが幸せな気持ちで接することができたら利用者も幸せだと思います

『福祉ってなんだとおもいますか？』

・単なる自己満足で終わってはいけないと思う。社会的弱者を守り助ける。人の為になんかしてあげられるか何をしてあげられることが一番その人の為が良いことかを考える

・何か障害があったとしても、普通に人として向き合って、沢山付き合うこと

・一人一人のうれしいやたのしいを見つける、増やす

・その人が自分で決めたり、選んだりできるような生活を一緒につくっていくこと

誰かの為という思いから始まり、**区別差別ないノーマライゼーションの考えがあり、さらに豊かさや幸せがあって、自己選択、意思決定への支援に行きつくのでしょうか。事業となると、また難しい課題も見えてきます。**

・福祉は不思議な仕事 競争から遠く、ボランティアとも違う それだけにこの仕事が好き、ということが重要なかもしれない

・本来あるべき生き方が難しい社会において、事業の形を借りて実行されるもの

おわりに

福祉の仕事とは、「人」を大切にすることにおいては最前線であるべきだと思います。支援を行うことにより一方通行ではない幸せがそこにはあります。アンケートを行い、一人一人意見は異なるものの、すべてを集めると素晴らしい力になると思えました。その皆の力を生かす為、現場から声をあげていくことの大切さを感じます。そして私たち支援者が、人生の主人公である利用者さん自身の為により良い支援とは何かを、チームワークで考え続けていくことが、利用者さんたちの幸せ・福祉につながっていくと信じたいと思いました。

(薬師丸・山田)

自閉症について ～自閉症支援の現場における感染予防～

「今季初の注意報 集団発生の学校も」「東京都インフルエンザ発生流行注意報を発令！」
 「今季初の全県注意報」「インフル18校で学級、学年閉鎖」「新型インフル北九州市が警報」
 「インフルエンザ、全国的に注意報レベル感染研発表」etc.....
 「感染性胃腸炎50人岩沼の小学校」「ノロウイルス集団感染 我孫子市の高齢者施設で46人」
 「保育園と福祉施設で胃腸炎が集団発生」etc.....

上記は、年が明けてからの新聞の見出し。Googleで「インフルエンザ」「ノロウイルス」で検索した結果、集団発生に関連した報道が今年1月のみで300件以上。この「ひとつごとではない」状況下、何よりも万全の対策、準備が必要だ。そこで、特に発生件数の多いインフルエンザとノロウイルスについて、その特徴と対策について確認した。

<インフルエンザ>

- ・主な症状 : 初期症状から高熱。頭痛。筋肉・関節の痛み。
- ・感染の仕方 : 飛沫感染（くしゃみ、鼻水等により、空気中にウイルスが飛散）
- ・予防の仕方 : 温度、湿度の保持（→低温、乾燥の環境でウイルスは長く生存）
: 手洗いで感染予防、うがいで喉の乾燥を防ぐ。
: 流行前にワクチン接種を受ける。
- ・発症後の対応 : 48時間以内に診断を受ける。重症化し治癒までの長期化につながり易い。

<ノロウイルス>

- ・主な症状 : 嘔吐、下痢、腹痛。熱は軽度。24～48時間で発症、1～2日で症状は落ち着く。
- ・感染の仕方 : 経口感染（2枚貝の食中毒、感染者が扱った調理器具や食品からの2次感染）
: 感染者の便や吐物が乾燥して飛散することでも感染
- ・予防の仕方 : 手洗い（石鹸を使い、10～15秒丁寧にもみ洗い）
: 食品は十分に加熱する。（85℃以上1分間）
- ・発症後の対応 : 抗ウイルス薬、ワクチンはない。水分を補給しながらウイルスが体外に出るのを待つ。
: 患者の便や嘔吐物を処理するときは、使い捨ての手袋とマスクを着用する。
: 塩素系漂白剤で殺菌する。（消毒用アルコールは効かない）（厚労省HP「感染症情報」より）

～施設での対策・対応について～

こういった情報を職員間で共有し、実際の現場で使えるものにしておくことが重要。手順としては以下の流れになる。

1. 正しい知識を得て、その知識を職員間で共有する。
2. 標準的な知識をもとに、自分たちの施設の環境や利用者に合わせたものにするための検討を行う。
3. 現場に即した予防及び対応法を全スタッフに伝達徹底する。
4. 必要に応じて改善を行う。そのための情報収集を継続する。



特に自閉症の方の場合 . . .



自閉症の方の場合、痛みに鈍感で重症感が分かりにくいこと、体温調節が苦手で汗をかけずに熱が体に籠ってしまうこと等、その感覚や機能が私たちと異なる点が多く見られる。また、実際に体の不調を感じていても、発言の内容は全く別のことであったり、口調が普段と変わらない場合や、体調不良を訴える方法が分からず、黙って苦痛に耐えてしまう場合等、コミュニケーションの障害が大きく影響するケースも少なくない。そのため、毎日の検温など、客観的な数値で把握する方法と、日常の観察の積み重ねから得られた個々のインフォーマルな情報からの把握の仕方、両方が必要になる。その中でも普段、接する中で得られる情報は重要で、客観的な数値の確認についても検温という行為そのものによって過去の苦しい経験を思い出してしまう方、脇で計ることに抵抗があるが耳なら計測可能な方、または3分待つことが難しい方にタイマーや時計を提示することなど、支援の現場では、常にインフォーマルな対応が必要となる。

こういった個々の情報については、職員間で情報が共有されていなければならないし、できるだけ客観的に観察できるように項目を整理しておく必要がある。利用者をより知ろうとする日々の努力を基礎に置きながら、職員間で情報の共有化をすることによってチームの取り組みとなり、そこから適切な対応が生まれてくる。

知識や対応法についての情報が機械的なマニュアルにならぬよう、今後も職員一人一人の利用者理解の意識を高めながら、自閉症者のためのより健康で安全な環境を提供していきたい。（野田）

ー2010年度自閉症児・者作品展に参加してー

11月27日の土曜日の休日、漸く自身の重たい腰を上げて家を出、電車を乗り継ぎ小田急相模原の駅に降り立ちました。会場は駅に隣接している“おださがプラザ”の4階です。夕方と言っているほどの時間帯に差し掛かり、通る人はみな買物袋をぶら下げて、帰宅を急いでいるようです。電車が着いたのでしょうか、目的のビルのエスカレーター付近は小さな人ばかりができています。

やまびこ工房利用者の作品や製品も飾られているのは分かっていましたが、何となく休みの日に遠くまで出掛けるのが億劫で、正直「顔を出さず程度にして、受付で挨拶をしたら早々に立ち去ろう。顔見知りのお母さんたちには遭いたくないな〜。」と考えていました。

そんな建前面で会場に向かうエスカレーターの列に並んだ瞬間、「しまった!!」と思いました。Aさんのお母様が乗場口で作品展のピラを配って呼び込みをしているのです。私の顔を見ると「来てくれたんだ、アリガトウ。」とピラを一枚手渡してくれました。失礼の無い様に説明します。なぜ「しまった!!」なのかといいますと、“このお母さんの自閉症に対する熱意には敵わない”と分かっていて、曖昧な動機で一応来た様な自分がとても恥ずかしく思ったのです。息子さんが自閉症なのですが、息子さんのことだけでなく、「自閉症のことを世の中の人にもっともっと知ってもらいたい」と土日関係なく色々な社会活動、勉強会のお手伝いをされています。私の様な、休日はゆっくりしたい一職員の自閉症に対する熱意などでは勝負にならないのです。

最初の出来れば顔を合わさずにこっそり見て、こっそり帰るという作戦が早くも崩れました。それでも帰る時は遭わないように裏口から静かに出ていこう、などと考えつつ4階へ向かいました。

会場は思ったより大きく、照明の具合も太陽光を思わせる温かなものでした。その中に小学生から大人までの作品が並んで展示されています。写真、絵画、日記、陶器、ウッドバーニング(熱したコテで木を焼き付けていく絵)、刺繍などなどどれも味わい深いものです。特に色づかいが鮮やかなものが多く、私たちでは中々選べない色がふんだんに使われています。担当利用者の数年前の作品はつい手にとって見てしまいました。その精巧で美しい陶器は彼が作ったものです。この作品は数年前のものです。では今年の彼の作品は…? 今彼にやってもらっている作業内容がとても貧弱に思えて、能力を引き出せていない自分を恥ずかしく感じました。

そんな自己憐憫の足取りで最終コーナーを回ったところ、ドーンとやまびこ工房のブースです。工房で作っている作品を展示販売しています。ここでも又遭ってはいけない、Bさん、Cさん、Dさんのお母さんたちに遭ってしまいました。このブースの接客をしてくれているのです。お母さんたちが一所懸命慣れない接客をしているのを見て、気持ちが折れました。結局その日の終了時間までお母さんたちのお手伝いをさせていただきました。お母さんたちの頑張り、熱意に感謝!!

この「自閉症児・者作品展」は相模原市独自に開催され始めて3年目になります。「ミロより優しく、ゴッホより激しく、ピカソより純真!」というキャッチフレーズの元、自閉症の方の様々な作品が展示されています。目的は「自閉症について彼らの作品を通じて、幅広く世の中の人に知ってもらうこと」です。

2011年の今年は……

11月25日、26日、27日に同じ「おださがプラザ4F」

で開催されます。是非多くの方に足を運んでいただきたいと思います。宜しくお願い致します。

(上条)



後援会のページ

ご挨拶

やまびこ工房家族会の皆様、風の谷の職員の皆様、穏やかな新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。本年も風の谷へのご支援、ご協力を賜りたく、よろしくお願い致します。

昨年3月に完成した、やまびこ工房第2棟の「赤い屋根」における短期入所事業も順調に推移しているように思います。今後は、利用日、利用目的、利用対象者の拡大等、更に利用者の利便性が向上することを期待しています。

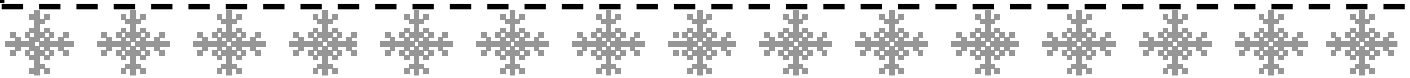
さて、昨年、相模原市に、やまびこ会の要望書を提出するに際して、風の谷とも協議のうえ、「自閉症の困難さ、支援の実態を肌で感じていただくとともに、継続的で一貫した支援の必要性を実感していただくため、市長にやまびこ工房を視察いただきたい。」との要望を提出しました。そして今般、市障害福祉課のご尽力により、2月2日に市長のやまびこ工房視察が実現しました。当日は、加山市長のほか、市の障害福祉関係の幹部職員の方々等5名がやまびこ工房を訪問されました。風の谷からは政野理事長、柳場理事、中島施設長、家族会から大久保会長、高田副会長、豊田前会長、やまびこ会鈴木が参加しました。

やまびこ工房内での利用者の活動内容や第2棟の設備内容を視察いただいた後に、懇談の機会がありました。風の谷設立の経緯、自閉症の障害特性、個人差に基づくきめ細かな支援の必要性等々活発に意見が交換されました。加山市長からは、パーテーション設置に関する貴重なご指摘もいただきました。

自閉症に特化した施設としてのやまびこ工房の運営を市長、幹部職員の皆様に、つぶさに見ていただけた意義は大きいと思います。

最後になりますが、皆様の今後のご活躍とご健勝をお祈り致します。また、いままでどおり、風の谷に温かいご支援をお願い致します。

風の谷後援会 会長 鈴木 秀美



【更新・個人】平成22年9月29日～平成23年1月25日（敬称略）

（相模原市内）

古橋須美 菊間政好 清水紳一郎 野崎廣子 小松真弓 松原麻子 西田明美 萩原春夫 萩原莉恵子 木村治男
（日本キリスト教会）

（その他の地域）

川野敏雄（苫小牧市） 才田孝徳（松戸市） 村井伸芽（川崎市） 上城功（八王子市） 藤野喜友（厚木市）
済田安司・順子（世田谷区） 江澤恵（さいたま市） 有路富夫（海老名市） 下田武（西東京市）
辺見貴江子（仙台市） 小山かおり（町田市） 内藤美也子（横浜市）

【新規】山城貴子（相模原市）

【ご寄付・ご協力】

新宿自治会 新宿小学校 （有）伸和トラスト ボランティアサークルきずな 依知の会
ワーカーズコープ・キュービック やまびこ工房家族会 遠藤さぎり 他大勢のみなさまありがとうございました。

風の谷後援会のご案内

風の谷後援会は、自閉症者の自立と社会参加を目指す『社会福祉法人 風の谷』を支援することを目的にしております。主旨に御賛同頂き、皆様の温かい御支援を頂きますようお願い申し上げます。

一般会員 一口：3,000円/年間 団体会員 一口：10,000円

※一口以上、何口でも承ります。現金を添えてのお申し込みも承ります。

お問い合わせ先

〒252-0244 『風の谷後援会』事務局

相模原市中央区田名 7236-3 社会福祉法人「風の谷」内 TEL：042-760-1033 FAX：042-760-7115

郵便振込先 口座番号 00230-1-15345